

卓球競技へのレーティング導入 ～年齢・性別・身体能力に捉われない大会を目指して～



DATA

- 主な連携先・メンバー
羽曳野市卓球連盟／各種卓球競技団体
- 活動地域
連携する卓球競技団体の所在地
- 活動期間
2000年度～継続中
- 活動資金
なし

活動の目的

- 1 卓球競技における技能レベル認定制度の確立および大会運営のサポート
- 2 年齢や性別差、身体差、能力差、技術差を超え、老若男女の卓球能力向上を目指す

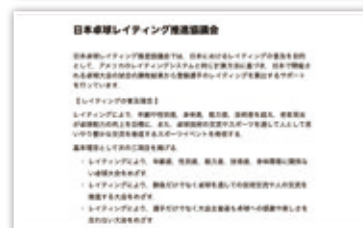
連携にいたる経緯

林は米国での研究期間中に現地のレーティング創設者との交流により、レーティング制度の趣旨および同制度の大会運営や競技者への波及効果について情報を得た。帰国後、レーティングが日本の卓球界において制度化されていない実情を知り、同制度の普及と発展に取り組むこととなった。

活動内容

レーティングとは、対戦する競技者の勝敗とレーティング(ポイント)差に応じて変動レーティング値が決まり、その変動レーティング値を各競技者のレーティング値から加点あるいは減点する技能認定法である。まず、普及団体として「日本卓球レーティング推進協議会」を設立し、専門家や著名な卓球の世界的メダリストを招へいた。羽曳野市卓球連盟などの関係機関に制度利用を働きかけたことにより、複数の団体で制度利用が普及したため、協議会は会員管理やレーティング計算等、制度の支柱となる作業全般を担っている。

地域の卓球競技団体ではレーティング大会が開催されており、参加者は自動的に協議会会員となり、試合結果によって会員のレーティング値が更新される。大会毎に新規会員の初期値設定など膨大な計算処理を行うため、専門的知識から複雑な計算処理プログラムを構築し、その大会の運営方法と計算結果を卓球競技団体に提供している。これまでの実績から、レーティング大会では、競技者技能の正当な評価、大会運営の公平性の確保、年齢・性別・障がいを超えた社会交流の促進等、従来の常識の枠を超えたスポーツ交流を実現できるため、制度利用団体のさらなる拡充に向け、各地方の競技団体に対して制度利用を働きかけている。



活動の成果

- 1 5,100人以上の会員登録
- 2 複数の卓球競技団体でレーティング大会を実施
- 3 大学の学際的知見によるスポーツを通じた新たな人間交流の創出

今後の課題・目標

レーティングシステムのさらなる普及と日本トップ選手の育成

教員紹介



■ 総合情報学部 教授

林 勲
Isao Hayashi

専門は脳知能情報学。ファジィ AI、クラスタリングモデル、脳信号でロボットを操作する脳コンピュータインタフェース、人とロボットが協調学習する卓球ロボット、スポーツ動作から技・スキルを獲得する身体知獲得、戦術戦略の知識化と情報可視化などの研究を行っている。